

宮城県石巻市（国内 17 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 3 月 26 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は海食崖に近い岬の丘陵斜面に位置しており、周囲を森林に囲まれている。
- ② 農場周辺ではカラス、トビ等の野鳥が少数確認され、農場から 1 km の距離にある漁港では、ウミネコ等のカモメ類約 150 羽、少数のウ類及びビオオバンが確認された。2.9km のため池ではアオサギ 2 羽が確認された。農場付近の海岸を含めいづれも、カモ類は確認されなかった。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎 1 階及び 2 階それぞれにおける 3 月 20 日以前の 1 日あたりの死亡鶏は 0 ~ 4 羽で推移していたとのこと。
- ② 3 月 21 日朝に発生鶏舎 2 階で 10 羽が死亡（その後、同日中に 33 羽まで増加）した。飼養管理者が剖検したところ、腹水や小腸膨満が確認されたが、換気扇が停止していたことによる室温上昇や、1 月に別鶏舎で発生していたクロストリジウム症の関与を疑ったことから、抗生剤を投与し経過観察としたとのこと。
- ③ 3 月 22 日には 2 階のみで 48 羽が死亡したが、この日も換気扇が停止していたこと、投薬を開始したばかりであることから、同対策を継続したとのこと。死亡鶏は入り口付近よりも鶏舎中央～奥で散在していたとのこと。
- ④ 3 月 23 日朝には発生鶏舎 2 階で 150 羽程度の死亡を確認（その後、同日中に 730 羽まで増加）した。このため、抗生剤を変更するとともに、管理獣医師が剖検を実施したところ、盲腸の出血性変化が認められたためコクシジウム症の関与を疑い、抗コクシジウム剤の投与を開始した。
- ⑤ 3 月 24 日朝には発生鶏舎 2 階で 250 羽の死亡を確認したため、管理獣医師に相談し、同日家畜保健衛生所（東部地方振興事務所畜産振興部）に通報した。
- ⑥ 疫学調査時には、発生鶏舎の処分は終了していた。発生鶏舎以外の鶏舎では異常は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場は 2 階建ての平飼いウインドレス鶏舎 4 棟を有する肉用種鶏農場であり、飼養管理者を含む 11 名の従業員で農場の管理を行っていた。
- ② 各鶏舎ではそれぞれ 2 名の専属の従業員が飼養管理及び集卵作業を担当しているとのこと。また、飼養管理者を含む残りの 3 名は、各鶏舎を担当する従業員が休みの際の補助等を行っているとのこと

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場出入口には消毒ゲート及び立ち入り禁止の標識があるが、農場周囲の林と衛生管理区域の境界に柵等の物理的な障壁や石灰帯等は設置されていなかった。
- ② 飼養管理者によると、車両が農場に入る際は、消毒ゲートで車両消毒を実施しているとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、従業員が衛生管理区域に入る際は農場内の事務所更衣室で農場専用の作業着、長靴及び手袋を着用するが、手指消毒は実施していないとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、外来者は消毒ゲート横にある飼養衛生管理区域外のプレハブで農場専用の作業着と長靴を着用しているが、フロアマットの交換や消毒は実施し

ていないとのこと。

- ⑤ 各鶏舎には前室があり、前室入口で踏込消毒を実施してから鶏舎用の長靴に履き替え、前室から鶏居室へ入る際には再度踏込消毒を実施しているとのことであったが、長靴履き替え場所にすのこ等はなく、エリア分けは不明瞭であった。また、鶏舎専用の作業着はなく、手指消毒は実施していないが、鶏舎内用の手袋に交換するとのこと。なお、踏込消毒槽は汚れ具合に応じて交換しており、3～4日に1回程度交換しているとのことであった。
- ⑥ 飼養管理者によると、全4鶏舎は同じロットでオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は、鶏舎内の清掃・消毒のため3か月程度の空舎期間を設けているとのこと。
- ⑦ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通して自動で給餌出来る構造となっていた。
- ⑧ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水は沢水を消毒してから用いているとのこと。沢水が不足する時期には水道水を利用しているとのこと。
- ⑨ 飼養管理者によると、種卵は農場内で洗浄・消毒、一時保管し系列農場へ出荷しているとのこと。
- ⑩ 飼養管理者によると、鶏糞は、オールアウト時に重機を用いて鶏舎から搬出し、市内の農家へ配布しているとのこと。なお、直近1か月以内の搬出はなかったとのこと。
- ⑪ 飼養管理者によると、死亡鶏は健康観察時に回収し、その日のうちに農場内の焼却炉で焼却しているとのこと。
- ⑫ 室温管理は鶏舎の各階に設置された外部につながる換気扇と吸気口の開き具合で調整しており、吸気口には金網、換気扇には閉鎖可能な蓋が設置されていた。
- ⑬ 飼養管理者によると、鶏舎出入口周囲の石灰散布を本年1月に2回実施したが、最近は実施していないとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場内や周辺でスズメ、ツグミ、ヒヨドリ、カラスやトビ等の野鳥、タヌキ、ハクビシン、シカ、ネコをみかけることがあるとのこと。
- ② 飼養管理者によると、主に鶏舎前室で時折ネズミの糞や餌袋の食い破りを見かけることがあるが、当該ロットでは過去のロットより頻度が少なく、本ロットでは殺鼠剤の設置等は実施していなかったとのこと。
- ③ 鶏舎壁面下方や壁の裏側の断熱材にネズミ類に齧られたと思われる穴が認められた。